

イモリ

Sword-tailed newt / *Cynops ensicauda* / Shiriken-imori / シリケンイモリ

和名・英名ともに尾の形にちなんだ珍しい両生類で、琉球諸島の中部に生息する固有種で、森の穏やかな溪流添いや湿地帯に生息する。やや大きめで、オスは体長 14cm になり、メスは 18cm にもなる。体は黒か濃い茶色で、腹部は鮮やかな赤である。シリケンイモリから分泌される体液は、フグと同様の強力な毒、テトロデオトキシンが含まれているため、天敵はほとんどいない。そのため、数はそこまで減らず、野生での寿命は 20 年とされている。だが、森林伐採やペットとしての違法な売買などが原因で、現在では近危急種に指定されている。

Anderson's crocodile newt / *Echinotriton andersoni* / Ibo-imori / イボイモリ

「生きた化石」とも呼ばれる最も原始的なイモリで、奄美大島の固有種の両生類である。奄美大島の広葉樹林の林床に生息し、最大全長が 20cm になり、イモリの中では最も大型である。黒か濃い茶色の体は幅広で平たい。頭は三角形で、肋骨が背中と体の両側から突き出ており原始的な姿のため、爬虫類と間違われる。外敵に襲われると肋骨を広げ、体を大きく見せる。成熟したイボイモリは陸生で、産卵は水源近くの陸上でする。道路建設や森林伐採により数が減少し、絶滅危惧種に指定されている。